

〔翻 訳〕

## 『スペクテーター』(50)

——第470号から第479号——

門 田 俊 夫

第470号 1712年8月29日(金曜日)

【アディソン】

取るに足らないことを難しくするのはよくない。(マルティアリス)<sup>1)</sup>

私は、このところ失望ばかりしています。ある古典の新版に目を通しましたら、巻の半分以上がさまざまな解釈で埋まっていることに気づいたのです<sup>2)</sup>。私はラテン詩人のある不確かな一節にしっかりした注がついていることを期待したのですが、分かったのはかくかくしかじかの昔の写本では et (そして) が ac (そして) になっていたとか、これと似たようなもったいぶった重要な発見ばかりでした。確かに、異なった解釈によって著者に異なった意味や新たな気品が授けられる場合には、校訂者<sup>3)</sup>は成功しています。しかし、同一の単語のさまざまな綴り方や20ないし30の写本のいろいろなへまやミスを集めただけですと、学識のある読者の時間をとり、無知な人々の心を迷わすだけです。私はしばしば、古のラテンの著者が、こういったさまざまな解釈によって、意味や文法が馬鹿げたことになり、それが自分のせいにされているのが分かれば、大変立腹するだろうなという思いに駆られます。あるところでは、馬鹿げたことを口にし、またあるところでは、聞いたこともない単語を用いるのです。確かに、細心の注意を払った校訂者がこれぞと考えた写本で読むことができたとしても、最高の著者がうしろめたく思わないような語法のミスはほとんどありません。

私がこれまで述べて来ましたが何のことか、ご婦人方や粹な方々のご理解したいと考えられているのは間違いないと思います。それゆえ、文壇の著名な方々にならって記述して、意見を述べてみたいと考えます。そこで、以下の想定で話を進めます。つまり、つぎの歌は私がこれまでの版、および昔の版で発見したさまざまな解釈を施した新版の形で提供する昔の頌歌と考えて欲しいのです。さまざまな解釈を楽しむことが出来ない人たちは、おそらく、これまで活字になったことのない解釈を目にすることになります。

---

1) マルティアリス『警句』2.86.9-10

2) ニコルスは、この諷刺は1712年ハーグで出版された *Pervigilum Veneris* に言及したものと解釈した。この著作は1714年、ヤサント神父による名高い『未知の傑作』で揶揄された。

3) OED によると、この箇所の Editor が現代的な意味で用いられた最初の例。

*My Love was fickle once and changing,  
Nor e'er would settle in my Heart;  
From Beauty still to Beauty ranging,  
In ev'ry Face I found a Dart.*

*'Twas first a Charming Shape enslav'd me;  
An Eye then gave the fatal Stroke:  
'Till by her Wit Corinna sav'd me,  
And all my former Fetters broke.*

*But now a long and lasting Anguish  
For Belvidera I endure;  
Hourly I Sign and hourly Languish,  
Nor hope to find the wonted Cure.*

*For here the false unconstant Lover,  
After a thousand Beauties shown;  
Does new surprising Charms discover,  
And finds Variety in One.*

〔さまざまな解釈〕

第1スタンザについて。

第1行の *And Changing* は、ある写本では *and* は *&* となっていますが、コットン版では *and* と3文字にしています。

第2行の *Nor e'er would* は、アルドゥス<sup>4)</sup> は *ever would* としていますが、これでは韻律を損ないますので、無知な編者は無視する合音<sup>5)</sup>を守って、*e'er* としました。

同じく第2行の *In my Heart* は、スカリゲル<sup>6)</sup> およびその他は、*on my Heart* としています。

第4行の *I found a Dart* は、ヴァチカン版ではこうなっていますが、おそらく *I* を *T* と勘違いした編者の錯覚だったに違いありません。

第2スタンザについて。

第2行の *The fatal Stroke* は、スキオピオス<sup>7)</sup> やサルマシウス<sup>8)</sup> やその他多くの人々が、

4) アルドゥス・マヌティウス (c.1484-1558) は、1490年頃、ヴェニスで有名なアルドゥス版を世に出した印刷業者・古典学者。

5) 合音 (synaeresis) とは、2つの母音を二重母音あるいは1つの母音に縮めること。

6) ユリウス・スカリゲル (1484-1558) はイタリア生まれの古典学者で、その息子ヨセフ・スカリゲル (1540-1609) は古典校訂の基礎を確立した。

7) カスパー・スキピオス (本名ショッペ) (1576-1649) はドイツの古典学者。カトリックの論客とし

*the* を *a* としていますが、私は通例の解釈をとり、*the* とします。

第3行の *Till by her Wit* は、写本によってまちまちで、*his* とか *your* とか *their* になっていますが、他の著者によるとコリンナは女性の名前となっていますので、私は *her* で間違いないものと考えます。

第3スタンザについて。

第1行の *A long and lasting Anguish* は、ドイツの版では *a lasting Passion* となっていますが、これでは押韻していません。

第2行の *For Belvidera I endure* は、どの写本も異論を挟んでいませんが、私は *Belvidera* は *Pelvidera* とすべきだと考えます。古代の喜劇作家の何人かは *Pelvis*<sup>9)</sup> を姿見として使用していますし、その方が語源的にも明らかとなります。*Pelvidera* はしきりに自分の姿を鏡に映して見る婦人を意味することになります。彼女がわが詩人が言うあらゆる美を備えている女性であるとすれば、確かに納得の行くところなのです。

第3行の *Hourly I sign and hourly lanfuish* は、写本によっては *hourly* を *dayly* とか *nightly* としているものがありますが、*nightly* が最も根拠があります。

第4行の *The wonted Cure* は、大ステファヌス<sup>10)</sup> では *wanted Cure* となっています。第4スタンザについて。

第2行の *After a thousand Beauties* は、*a Hundred Beauties* となっているものが散見されます。これはおそらく組み合わせ文字を無視した編者のよくあるミスです。彼らは、詩人が恋人に送った賛辞は *Hundred* の10倍の *Thousand* であることを認識しなかったに違いありません。

第4行の *And finds Variety in one* は、昔の写本の大半は *in two* となっています。多くがこの解釈に同意していますので、私としてもあまり自信はありません。私が *one* にした理由は2つだけあります。1つは韻律の関係で、もう1つは意味上の理由です。同様に、編者の眠気から生じるかも知れません。彼らは早く作品を出すために、数字はすべて組み合わせ文字で記そうとします。そして、昔の写本にはよくあることですが、筆勢で書かれた1という数字を見て、数字の2と間違い、この両者をひっくり返して2としてしまいます。ところで、こういった不確かなことはこれ以上何も断定しないで、学識者の手に委ねたいと考えます。

---

てプロテスタンティズムを公然と否定した。

8) クラウディウス・サルマシウス（フランス語名クロード・ド・ソメーズ）(1588-1653) はフランスの古典学者。

9) 骨盤 (pelvis) は、ラテン語で水盤の意。

10) エチエンヌはフランスの印刷業者・学者：書籍商の一族。アンリ1世（1470-1520）がパリで印刷業を始め、息子ロベール、孫アンリ2世（1528-98）と活躍。

第471号 1712年8月30日（土曜日）

【アディソン】

賢者は人生を将来の希望のために費やすべきだ。（エウリピデス）<sup>1)</sup>

「現在」というものが人の心に十分な目的を提供することはめったにありません。苦しみや喜び、愛情や賞賛を喚起させる対象は、魂を絶えず活動状態にさせ、魂の機能に直接的な仕事を提供するのに十分なほど重苦しくなることはありません。それゆえ、心が仕事ではなく、常に思考の材料を欲しがっているというこの欠陥を補完するために、心には過去のことを思い出し、将来のことを見越すことが出来るある種の能力が授けられています。

いわゆる「記憶」という素晴らしい能力は、楽しむことが何もない場合には、ひっきりなしに回顧することになります。ちょうどそれはある種の動物の貯蔵庫（反芻胃）のようなもので、胃にそれまでの食糧を蓄えておき、牧草が無くなったらそれを反芻するのと同じことなのです。

記憶がぼんやりした心を元気な状態に戻し、過去のことを考えることで思考の途切れを防ぎますが、私たちには心を興奮させ、将来のことを考えさせる別の能力が備わっています。希望と恐怖という情念がそうです。この2つの情念によって、私たちは来世へと迫り着き、遠い彼方に潜んでいるものに思いを馳せることになります。私たちは一般に不幸と幸福を経験します。天と地が存在しなくなると、人目につかない来世に入り込み、太陽や星を見ることもあれば、見失うこともあります。

ところで、思考はそうではないのですが、被造物の生存は時間によって制限されるというのを誰が想像できますか？ 私としましては、本日の紙面では、希望という名で知られているこの特別な情念に専念したいと思います。

私たちの現実の楽しみは限られており一過性のものですので、もしこの情念が付与されていなければ、人間はとても惨めな存在となります。私たちは希望のお陰で、おそらく入手するかもしれない好ましい事態を経験するのです。古の詩人リノスは言います、「私たちは善なるすべてのものを期待すべきです。なぜなら、期待してはいけないものは何一つなく、神々が私たちに与えることが出来ることばかりなのですから」<sup>2)</sup>。希望は眠っている素質を刺激し、無気力でやり気を無くしている心を覚醒させます。希望は持ち前の穏やかさと上機嫌をもたらします。希望が魂にとっての一種の熱となり、虚ろな魂を元気づけます。苦痛を和らげ、労苦も楽しいものにします。

希望から生じる以上の利点以外にももう一つ利点があります。それは現在の楽しみを高く評価させないという点でとても効果的だということです。カエサルが言ったことがよく知られています<sup>3)</sup>。彼が心づけとして友人たちに財産を分配したとき、ある人がご自分には何を残されていますかと尋ねると、この偉大なる人物は「希望」だと答えたのです。生

1) エウリピデス『イーノー』断片7

2) ストバイオス『詞華集』110.1 ストバイオスは5世紀頃のギリシアの詞華集編集者。

3) これはアレクサンドロスの間違い。プルタルコス『アレクサンドロス伝』15.2

来の雅量によって、彼は実際に所有しているものを高く評価せず、心にあるもっと大事なことに思いを馳せたのです。私が指摘しなくても、読者は一人残らずこの話から教訓を汲み取り、自分に当てはめることは間違いのないところです。

パンドラの箱という古の物語（これは人類の墮落という伝承に基づいて異教徒たちが作り出したものと学識者の多くが考えていますが<sup>4)</sup>）によれば、彼らは希望のない現在の生活を非常に嘆かわしいものだと考えていたことが分かります。この上ない不幸な状態を示すために、異教徒の神学によると、私たちの先祖はパンドラが持って来た大きな容器を手にしたのだということです。この神話によると、蓋を開けると、その時までは免除されていたあらゆる災いや疾病が飛び出し、人々に降りかかることになったのです。数多くの不快な仲間たちと一緒に箱に収まっていた希望は、その仲間たちと一緒に飛び出さずに、蓋に張り付いていましたので箱の中に封じ込められたのでした。

以上述べたことについて2点だけ指摘しておきたいと思います。一つは、希望に満ちた、とりわけ、希望に確かな根拠があり、希望の対象が高尚であり、これを享受する人物を幸福にするのにふさわしいものである場合には、希望に満ちた生活ほど幸福なものはないということです。この命題は、最高に幸福な人物の現在の楽しみというものは数限られているということ、そしてまた、完全な満足感や黙認に至るには不十分だと考えている人たちにとっては極めて明白なことに違いありません。

二つ目は、宗教的な生活は確かな根拠に基づく希望に満ちており、それは私たちを完全に幸福にすることが可能な対象に目が向けられているということです。宗教的な人物が抱く希望は、理性だけでなく信仰によって強化されますので、いかなる現世の祝福よりもはるかに確実なものとなります。同時に、この希望は絶えず、完全に充実した正真正銘の幸福を暗示する状態に目を向けているのです。

私は以前、幸福というものは一般に生活を楽しませ、現状を楽しいものではないにしても、我慢できるものにするということを明らかにしたことがあります。しかし、宗教上の希望にはさらに大きな利点があります。これは苦しんでいる心の支えとなるだけでなく、心に喜びを与えます。つまり、希望の大きな究極的目標を手に入れる道具となるわけです。

同様に、宗教上の希望はほかの希望に勝る利点があります。つまり、この希望は死にかけた人を蘇らせ、その心を密かな慰めと爽快感だけでなく、時として恍惚と忘我で一杯にします。彼は死の苦しみを克服し、一方で、魂は喜び勇んで心にあった大いなるものへ向かって飛び立ち、肉体は輝かしく喜びに溢れた復活で魂と再会することを期待します。

小論は活気に満ちた希望が述べられている力強い表現で締め括りたいと思います。詩篇作者ダビデは、危険や災難に取り巻かれている最中に、将来と予言的な意味だけでなく、現在の私的な意味でつぎのように語っています：「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。このゆえに、わたしの心は楽しみ、わたしの魂は喜ぶ。わたしの身もまた安らかである。あなたはわたしをに捨て

---

4) ロバート・バートン『憂鬱の解剖』1.1.1.1

おかれず、あなたの聖者に墓を見させられないからである。あなたはいのちの道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある」<sup>5)</sup>。

第472号 1712年9月1日（月曜日）

【スティール】

このただ一つの喜び、禍の慰めであった。（ウェルギリウス）<sup>1)</sup>

私はしばらく前に一つの提案を受け取りましたが、そこには序文がついていました。筆者は数限りない慈善の対象について詳細に語り、何らかの病に苦しんでいる裕福な人たちに向かって、すべての人を助けることはできないので、特に同じ病に苦しむ貧しい人に注意を払い、慈悲心を彼らに振り向けるように助言をしていました。提案者はサー・ウィリアム・リード<sup>2)</sup>の手術のお陰で目の病から救われました。身分のある人物の彼は、盲目の3人にその祝福を授ける決意をしたのでした。この不幸はそれほど多くの人に起こることではありませんので、盲目の貧しい人全員を収容する施設は、目の病を抱える裕福な人たちにほんのわずかな人たちが加われば、簡単に完成すると思われるかもしれません。しかしながら、提案者の考えは非常に立派な動機から生じたものです。特定の慈善行為として身を切ることは、社会と美德の見事な絆となります。同じ楽しみで意見が一致するのは、互いに行き来があり、親しくなっている人々にとってはよくあることです。また、共通の悩みを抱えていることが、友好関係を築く根拠になることもあります。安逸と楽しみと贅沢が原因で痛風のため不自由になっている裕福な人たちが、それまで安楽な生活をしていないのに痛風にかかっている人たちに援助の手を差し伸べ、これに、不運な打撃や転落やその他年齢とか病気のために不自由になっている勤勉な人たちを加えればいいのです。要するに、痛風病の裕福な人たちが同病で不自由な生活をしている貧しい人々の窮乏に役立つと、熱が出たり、めまいがしたり、激痛を伴ったりするこの不愉快な疾病にとっては、最高の砂糖水、強壮剤、鎮痛剤になります。その他身体的および知的な害悪すべてについても同じことが言えるかもしれません。こういった慈善行為は確実に人々に祝福をもたらします。当然の付き合いをしないで、現世への執着で麻痺していなければ、病気の参事会員を引きずり込むことは、貧困に喘ぎ、苦痛の激発に襲われる貧しい人にとっては不当な請求書にはならないでしょう。

バジル・ブレンティ様

5) 『詩篇』第16章 第8-11節。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』3.660-1

2) スウィフトは1711年4月11日、ステラ宛に「きっと彼の名を聞いたことがあろう。彼はペテン師だったが、今は女王陛下の眼科医をしている」と書いた。1705年1月、リードは白内障の患者の視力を1600人から1700人回復させたとの広告（デイリー・クーラント1月1日）、この年の7月ナイトの称号を授けられた（デイリー・クーラント7月30日）。

貴方は痛風になり、結石を持っています。おまけに、財産は6万ポンドおありです。小生も痛風になり、結石持ちですが、財産は皆無です。何卒お願いですが、この手紙の持参人に20シリングお渡しくださいませんか。

クリップル・ゲート<sup>3)</sup> 1712年8月29日

期待を込めたラザルスより

読者自身の想像力からすれば、この手紙がもっともだと思われ、この手紙からいろいろなことを思いつかれることでしょうが、私としては盲目ということについて述べて締め括りたいと思います<sup>4)</sup>。つぎの手紙は、繰り延べになっていた研究に復帰した学識者が書いたように思えます。彼自身が受けたと知らせている恩恵は、執刀者に与えることができるこの上なく丁重な誉め言葉を受けるに値します。

観察者殿

最近、想像力の喜びに関する貴殿の素晴らしい論考<sup>5)</sup>について思い巡らしたとき、この喜びに貢献する最も強力でかつ最も重要な感覚は何かということを考え始めました。直ぐに、それは視覚だという結論に達しました。視覚は五感の王者であり、無教養な人の無礼を磨き、立派な精神と偉大なる俗人と小人<sup>6)</sup>のもつ野蛮な趣味とを識別する礼儀正さを身に付けさせるあらゆる芸術と科学の母なのです。視覚は有り難い恩人で、さまざまな素晴らしい自然の所産から獲得する忘我の気持を授けてくれます。惑星の高度や等級や動きに関する驚くべき発見をするのも、視覚のお陰です。惑星はそれぞれ光と熱と運行の中心としての太陽を軸として回転しているわけです。視覚は恒星まで届き、その理解力に、それぞれが渦巻きの中心にあって自転しており、輝かしい太陽と同じように、従属している惑星に輝かしい太陽と同じ役割を果たしている太陽であるということを証明する確かな理由を与えています。しかし、視覚に関する探究はここで留まることはなく、広大な銀河系にまで及びます。そして、銀河系の混ざり合った火炎を無限のいろいろな世界に分ち、別個の恒星と独自の供回りを構成しています。軌道の追跡がこれ以上不可能になると、新たな発見をするためには想像力が必要となり、無限の宇宙は想像力によって際限のない世界で満たされることになります。

視覚は彫塑のノミに、生命のない真鍮や大理石に生命力を与える力を、平板な画布を盛り上がらせる画家の筆に、想像上の魂で活気づく感動的な人物像を吹き込みます。確かに音楽こそ、ユバル<sup>7)</sup>以来鉄床を打つ槌の音の違いによって、ノアの大洪水以前の先祖を喜ばせた最初の素朴な音楽が見出したもうひとつの源泉だと主張するかもしれません。だがそれから、視覚は乱雑な音を巧みなハーモニーに変えただけでなく、音の助けを借りなく

3) クリップル・ゲートはベスレヘム病院の北西部にあった。

4) スウィフトの『病院』はおそらく今号に触発されたものと思われる。

5) 「想像力の喜び」については、第411号から第421号参照。

6) カウリーの「偉大なる俗人」については、第114号参照。

7) 『創世記』第4章 第21節。

でもハーモニーを世界の各地に伝えます。哲学のあらゆる発見だけでなく、ホメロスやミルトンやウェルギリウスを読む知的な人たちを夢中にさせる詩歌のあらゆる神聖な心象も視覚のお陰です。

視覚が世界に磨きをかけているように、視覚は私たちに非常に快適で永続的な喜びを与えます。愛情や友情や父性愛や子としての孝行心や夫婦としての本分は、久しぶりに出会ったときには視覚が大きな喜びを与えてくれます。ところで、視覚の喜びや利点をすべて列挙すると際限がありません。視覚が備わっている人は誰でも、これを活用するときはいつでも、喜びや利点を目にし、感じ、享受します。

このように私たちの最大の喜びや知識は視覚に由来しますが、神の摂理も視覚の中核である目の構造には、他の感覚器官よりも細心の注意を払います。この素晴らしい装置は、筋肉と膜組織と体液で組み立てられています。動きは筋肉によって見事に管理されており、透明な体液が光線を通し、光線はその形状によって規則正しく屈折し、強膜の黒い内層は反射の混乱を適切に防ぎます。目が一度に非常に多くの対象を取り入れ、引き続き瞬時にして位置や形状や色彩を判断すると考えると実に不思議です。目は危険を察知し、足の運びをリードし、喜びを与えてくれる目に見えるあらゆる美しいものを受け入れます。

視覚の喜びと利点は際限なく、視覚を失うことは非常に嘆かわしいことであるに違いありません。これについて、ミルトンは経験上、『失樂園』第3巻および『闘士サムソン』においてとても思慮深い考えを述べています。

光明について『失樂園』では

「今、私はなんらの不安を感じることなく、  
汝を再び訪れる、そして、汝の強く生氣滲刺たる光明を  
切々と感ずる。だが、汝は、この眼を——汝の光芒を求めて  
輾転とするもただ空しく、ついに曙光も見出しえないこの眼を  
二度と訪れてはくれぬ。」<sup>8)</sup>

この少し後で

「かくして年々歳々四季こそめぐり来るものの、白日も、  
朝も夕べの爽やかな訪れも、爛漫と花咲く春の顔<sup>かんぼせ</sup>も、  
夏の日の薔薇も、羊の群れも、牛の群れも、ゆかしい人の面影も、  
ついに私には戻ってこないのだ。私の前にあるものは  
黒雲と果てしなき昏冥にすぎない。私は人の世の楽しみから  
断ち切られ、美しい知識の書を与えられるかわりに、  
私にはもはや抹殺され消去された自然の物象についての  
空漠たる空白の世界が与えられ、知恵の入口の一方において  
完全に閉め出されてしまっているのだ。」<sup>9)</sup>

8) 『失樂園』第3巻 第21行-第24行。

9) 『失樂園』第3巻 第41行-第50行。

再び『闘士サムソン』では

「ああ、あらゆるものの要である視力を失うとは！

なんとしてくれるのだ、敵に囲まれて盲目とは！

足かせ、地下牢、極貧、老いぼれよりもひどい。

神の最重要な御業である光明はわたしから消え去った、

喜びを与えてくれる物はすべて奪い去られたのだ。

それでも、愚か者のように、わたしの力ではなく

他人の力にすがって、生きている心地もしない、そう死んだも同然だ。

ああ、闇よ闇よ闇よ、真昼のまばゆい光の中であって、

取り返しをつかない闇に包まれ、完全に光明は消え去り、

希望はすべて無くなってしまった。」<sup>10)</sup>

このように、視覚の楽しみはとても大きな祝福であり、喪失はこの上なくひどい不幸です。ので、視覚を回復させ、盲目を治癒できる医師の技術はとても素晴らしく貴重です。

折りに触れて新聞に掲載される広告を見ていますと、(これは一般にとっても心地よい楽しみを提供してくれますが)、熟達した女王陛下の特別任用医グラント博士<sup>11)</sup>が施した多くの恩恵が目に入りました。博士の巧みな腕によって、4年足らずで数百名の視力が回復したとのことです。多くの人々が、ニューイントンのジョーンズの名高い例のように、彼のお陰で先天的な盲目が治ったのです。私自身は彼に盲目寸前の弱視を治してもらいました。そこで、彼の腕前についてあれこれ言われていることはすべて信じます。お金のない人々も多数が彼の慈善のお陰で治ったことも知っています。しかし、詳細に述べますとこの手紙は膨大な量になってしまいますので、同病に苦しむ人たちの慰めには以上のことだけで十分だと思います。グラント博士のような有能な眼科医がいるのですから、誰でも希望が持てます。

敬具

フィランソロパス

第473号 1712年9月2日(火曜日)

【スティール】

ある人が粗末なガウンを着て、靴も履かず、額はざらざらで、

表情は厳しく、姿も服もあの育ちのよくないカトーのようであつたら、

その人は美德と知性を表出しているに違いない。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

10) 『闘士サムソン』66-72行、77-82行。

11) ロジャー・グラントは眼科医として数多くの手術をした。サー・ウィリアム・リードの死後、ジョージ1世の侍医に任命された。ウィリクム・ウッドによると、グラントはかつて従軍中に片目を失明したことがあり、自らの災難を契機に眼科医になることを決意したとのこと。

1) ホラティウス『書簡詩』1.19.12-14

## 観察者殿

小生は現在田舎に滞在中で、大半の時間を読書とこれまで読んだ内容に思いをめぐらすことで過ごしています。貴紙は定期的に届いており、とても感心していますので、貴方にならって小生の考えをまとめています。そこで、貴方がまだ触れておられないテーマについてお勧めします。それは人によっては不完全さを認めていると思われる満足感のことです。小生からすると、それは不十分さを鼻にかけていると言えると思います。ある著名な著者は、おそらくそれは嫉みから生じるものだろうが、妬みと相容れないものだと考えています<sup>2)</sup>。この種の人が自分のことを喋るのを聞くことはよくあることです。彼らは非凡な才能と素晴らしい資質の持ち主だと思われるために、自分の欠陥を称え、くだらない過ちはよく犯すと進んで認めて、(彼らの考える)長所を減じるのです。一般に、彼らは無分別にもダンスやフェンシングや乗馬は軽視しているのだと公言しています。同時に、不当にも旅行や現代語は軽蔑しているのだと言います。(彼らが言うには)彼ら自身は、こういったことを重んじることはなく、また、頭を悩ますこともありません。この自分自身への賛辞の諷刺はきっと貴方の非難を受けるに値します。こういった紳士の一人が、約束の日を、時には話しかけられたことさえも忘れざるを得ないと思っているのを知っています。そして、彼らに出会うと、自分たちは記憶力がとんでもなくお粗末なので、大目に見てくれることを期待するのです。先日、ある人が少し狼狽して急に立ち上がり、「思い出しましたが、ある用件で弁護士のモートメイン氏に会わなくてはならないのですが、今日だったかはたまた明日だったか分からない」と言ったのです。ところで、小生が確信する限りでは、彼は時間のことはきちんと分かっているが、そう言ったのです。こういった物覚えの悪い人たちは、不注意のお陰で時々思い出していることから分かるように、自分たちの無分別な行為を誇張するために、一般に誰にも負けないくらいの非常に素晴らしい記憶力があります。小生の知り合いに、現代悲劇のほとんどを暗記できる人が2、3人います。小生は先日、肉を切り分けるのが上手で知られている紳士に(彼はこれを習得していることは自分の持っているもっと重要な資質を減じると考えて慌てるのですが)そばにある肉をよそって欲しいと頼みました。すると、彼は無類の器用さで切り分け、分離し、さばくことが出来るのは分かっているのですが、弁解をし、顔を赤らめながら、そんなことは出来ません、と言ったのです。まるで小生が資産家の名士が職人のような手際のよさを習得し、器用さで秀でることが賞賛に値するものと考えていないかのような受け止め方でした。小生は本当に賞賛に値することを恥ずかしがることはないと言っているに過ぎません。ある点でこういった器用さを見せびらかすことが示すように、この気質の人が身奇麗にしていることを恥じ、ただ単に服装に無関心になっていることで才人のふりをしているのをしばしば見かけます。この件では、同じ理由から生じるとても特異な愚行について意見を述べざるを得ません。上述のことは、同じ欠点を持っていることで、自分よりも優れた才能の持ち主と互角であるといったふりをすることから生じますが、自分よりも優れた人にはな

---

2) ラ=ブリュイエール『人さまざま』(1688)第11章。

い些細な強みを持つことによって、彼らとの類似点を見つける人たちもいます。つい先頃、良識ある若者が自分はギリシア語やヘブライ語や東洋の言語は知らないといって自分を慰めているのを耳にしました。彼はこういった言語に対する強い反感を言い触らす一方で、彼がこれらを修得していないことを悩み、愚痴をこぼしていることは分かっているのですが、こういった言語を知っていることは人格の向上というよりも減損につながるのだと言ったのです。小生が立派な人たちのことを取り上げ、彼らが理解していないことをけなすときはいつでも、貴方に訴え、何かを軽蔑する人はそれに無知な人だということを貴方が例外扱いにはしないと確信していると彼らには告げることにします。

敬具

観察者殿

私はかなりの資産家で、立派に恋をしています。究極的な目的が誠実な場合は、潔白さに違背しない何らかの楽しみがあることを貴殿は認めていただけるものと希望しています。おそらくこういった場合、身分のある人たちは非常によそよそしくなるに違いありません。事情がどうであれ、私の罪を償うために詩を書いたのだと打ち明けることにします。貴殿は明言なさっていますが、紳士然とした書き方をする著者は私たちに対して少し厳格に当たるとのことです。ところで、貴殿が恋の味方であれば、私の詩を掲載なさるものと思います。私の書いたものが貴紙に載ることは、私の友人たちの評判だけでなく、わが麗しい人にどれだけ役立つか貴殿には想像が付きません。私の罪は不意にキスをしたことにあります。詩による言い訳は以下の通りです。

I

ベリンダ、あそこにある花の間から見てご覧、  
蜂が飛び、巣穴にいっぱい詰め込んでいますよ。  
君には蜂が何をむさぼり食っているか分かりますか。  
蜂たちは誇示や匂いで傷つきますか。

II

ところで、私は君の唇を奪いましたが、  
蜂たちが味わう美味な露よりも甘美でした。  
なぜ君は私の無上の喜びに腹を立てるのですか。  
それで君は痩せ衰えるとでも言うのでしょうか。

III

このように巧妙に、私は考えているのです、  
君の冷たい仕打ちにもめげず、  
私が渴望する恋を、君が冷たく拒んでいる  
恋に生氣を与えることを。

ティモシー・スタンザ<sup>3)</sup>

3) この詩はブランチャード女史の編集したスティールの *Occasional Verse* (オックスフォード, 1952)

1712年 8月23日

前略

自由になる時間がほとんどありませんので、小生に出来ることと言えば、貴殿に手紙を書くくらいしかありません。というわけで、今、そうしているところです。

草々

ボブ・ショート

追伸：小生の文章をお認めくだされば、寄稿者になれる可能性は十分あると思います。これについて貴殿のご意見をお聞きしたいものです。思慮深い人たちが「くだけた」と呼ぶ書き方にします。

第474号 1712年 9月 3日（水曜日）

【スティール】

無骨で野暮なこと。（ホラティウス）<sup>1)</sup>

観察者殿

最近仕事と楽しみの中心から身を引いた一人ですが、田舎での居心地の悪さは孤独というよりもむしろ人付き合いから生じています。年齢も好みもまちまちのために、楽しむことも出来ず、有益でもない隣同士で行き来することは、つまらない時間の浪費であり、出来ることなら、解放されたい隷属状態に陥っています。人生の前半をくれてやったという理由で、余生まで浪費することはありません。楽しみに熱心な人たちのお喋りを嫌々聞かされることは、私には耐えられない苦痛です。犬や馬の方がもっと細やかな心遣いをします。同時に、私は、自分のための乾杯とはいうものの、なみなみとついだグラスを欠かせないというあの忌々しい教えや態度が大嫌いです。酒はひとえに陽気さを与えるために飲むものと言われますが、大量に飲酒しますと、ほどほどの飲酒だと残っている上機嫌さを確実に溺死させます。もしこういったパーティで、気分次第でグラスを満たすとか十分に人々に従ったと分かったときに撤退するといったことが訪問者ひとりひとりに任されていれば、このパーティは、今あるパーティよりももっと良識のある人たちが、その結果、もっと育ちの良い人たちが取り仕切ることになります。確かに、客人の名声や喜びがグラスで評価される場合に、この評判で資産を押し上げるために、適切な忠告をすることができるかも知れません。しかし、慎重な客人に不適切に押し付けられる場合は、この一杯はまるでそのために角に溜め込まれていたかのように、やむを得ず飲まれたと言えるかも知れません。これは一層悪化させることになり、馬の元気を取り戻させるのと同じ程度に客人を苦しめることになります。

5本のかんぬきのある木戸や二重の溝や断崖の話をいらいらしないで聞くことは、そし

には含まれていないが、著者不明の詩の中で簡単に論じられている。

1) ホラティウス『書簡詩』1.18.6

て、待ち望んだ目をした弁士を見ることは、私にとっては極めて困難なことで、無条件に我慢せざるを得なくなります。その場合、どうしても欠かせないことは突然笑い出すことなのです。実を言いますと、今は、いい仲間であるために必要なその激しい発作は起こしていません。そこで、お願いですが、この手紙を掲載していただき、皆さんに私が変人であることを知らせ、私に近寄らないように仕向けてください。読書と物静かな交際に身を任せている私たちが、こういったドンチャン騒ぎをする連中の訪問を受けなくてはならないのは、あまりにも馬鹿げています。しかし、彼ら自身は隣人として、彼らと犬が猟場で狩りをするのと同じ権利で私たちの部屋にやって来てもいいと考えているのです。

私がいつも感心していますクラブという組織では、貴殿は絶えず、いわば死者同然の、つまり、多忙を極めている人たちにとっても有益でなく、隠遁し思索に耽る人たちにとっても楽しくないそんな人たちのクラブを作ろうとされています。そこで、各州に、私が述べたような人たちのクラブを設立すべきです。そこでは私的にも公的にも利益にならないようにその他の社交をすべて排除するのです。この会員の服装は狩猟家と同じものにし、鎖骨を3度折ったことがない人はこの緑の風俗画の仲間入りが出来ないことにするのです。肋骨を1、2本折った人もまた文句なく入会できます。会長は必ず首の骨を折ったことがあり、1、2度死を経験した人でなくてはなりません。なぜなら、仲間が大きな怪我をしたことがあれば、それだけ会話ははずみ、維持し易くなるからです。こういった元気一杯の傷病者の一人が鎖骨の話を終えると、自然に肋骨の話に移るのです。おまけに、各自の転倒や骨折の事情が異なれば、その話を長引かせたり変化を与えたりするのに役立ちます。同時に、これとは別に、大怪我になるには至っていないが、絶えず大怪我をしようとしている人たちのクラブがあってもいいと思います。私の言っていることで、キツネ狩りをする人一般を中傷しているわけではありません。なぜなら、分別のある人が、仕事ではなく、楽しみのために、全速力で猟犬の一群を追いかけているのを見ると、いつもあっぱれだと思うからです。

ところで、私が近隣で経験した最も退屈な会話は、2、3人の旅行者の話でした。彼らは人々やマナーを見過ごし、グレート・ブリテンを旅する運び屋や馬車の御者と同じ観察しかせずにフランスやイタリアを通過したに過ぎません。つまり、彼らの停泊地、旅程は旅行中に経験する酒によって調整されたのです。彼らは確かに数多くの地名と教会の細やかな装飾品のことは覚えています。彼らの顕著な特徴は外国語の巧みさですが、自分自身の言葉で喋った方がもっとうまく表現できたはずです。こういった立派な観察者について、シェイクスピアはつぎのように述べています。

アルプスやアテナインの山々がどうの、  
ピレネー山脈やポー河がこうのと話していると、  
その後でため息をつきながらつぎのように締め括ります。  
これがお偉い閣下たちの社交ってやつだ<sup>2)</sup>。

2) シェイクスピア『ジョン王』1.1.202-3, 205 これは私生児の台詞。

私は犬のように誠実な人たちのことを決して嫌っているわけではありません。私は、彼らの楽しみに参加できないことを残念に思っているに過ぎません。私は彼らのことが犬同様に大好きですので、お気に入りの犬に与えたり、犬の中をかきわけて近隣の家に辿り着いたりするために、しばしばポケットにパンを詰め込んで出掛けます。特に、私の移動に注意を払っている、将来性があり、快活で、新種の気性のある若い猟犬が一匹います。私を目にすると、彼は浮かれ騒ぎ、はしゃぎ、喜びます。私の顔色を見、それに応じた振舞いをします。私は、彼をあまりけしかけないように真剣に求められています。なぜなら、そうすると彼の才能を台無しにしてしまうからです。だが、私の機嫌取りをするときには、跳びまわったりじゃれたり体をこすりつけたりして、たっぷり意思表示をしていると思います。そのうちに、彼と私はお互いにお付き合いをしなければならない予感がします。なぜなら、私たちは才能という点で他の誰ともふさわしくないからです。貴殿に私の田舎での過ごし方をお知らせしましたので、つぎに、もし私に作法やならわしを守らなくてもいいほどの財産がなかったら、どのような過ごし方になるかお伝えしなくてはなりません。

その場合の私の田舎生活の案はつぎのようになります。気の合う友人が2, 3人いれば十分ですので、この友人は絶えず離さないようにします。私たちは学校、大学でお互いに気安くしていましたので、どんな場合でもとても大胆に振舞えます。一日のうち一定の時間を読書に費やすことにして、その時間は突発的なことがない限り、お互いの部屋に入れないようにしておきます。読書の時間が終わると、経験したくだらないこととか大切なことを自分の意見を添えて伝え合います。そして、その妥当性について機嫌よく熱心に議論しますが、その時は、他の人たちなら15分もすれば断定したり否定したりするような事柄を、必ずお互いに思いやりを持って話をするようにします。私たちの順番ではないのに、近所の誰かがやって来たら、こういった人物を私は、かつてフランス人が公共にとってそうであったのと同じように、私の幸福な特別な状態を壊す敵とみなします。そこで、年間の経費を払って彼らの動きを探らせることにします。私は不意打ちの訪問があるときはいつでも、私は飲酒が苦手なのですが、「他人の無礼で悩むよりは己の無礼で他人を困らせるほうがましだ」という格言に則って、勢いよくがぶ飲みします。療養所が必要ということですので、私はこんな企画を始めることにします。私たちはわずか5人ですので、強制的な隔離という恐怖によって、私たち仲間ではその余地がありませんが、貴殿が述べられている正当な監禁状態<sup>3)</sup>にならないように努力することになります。私のこういった生き方は、気難しく、強欲で、風変わりな人からの非難を浴び易くなります。退屈な冗談とかいろいろな非難とか辛らつな言葉は、私や私の仲間からすれば陽気なことです。おまけに、私は、不当なことに、不可避の隣人のことも年一度の息抜きと考え、また、私の友人や召使に当然の感謝を示す人間的に接することで、不機嫌とか強欲といった形容辞はその効力を消失させているのです。風変わりという言葉に関しては、私は常に人間は誰でもそうあるべきだと考えて来ました。

---

3) 「療養所」については、第424号、第429号、第440号参照。

敬具

ジェイ・アール<sup>4)</sup>

観察者様

2年ほど前に、私は母方の縁続きにあたる田舎に住む若い家族から口のきけないキャンベル氏<sup>5)</sup>のところへ同行して欲しいとの依頼を受けました。彼らが言うには、町にやって来た主たる理由はエセックスで彼の奇跡を耳にしたからだということでした。こういった事柄ではいつも信義を望んでいた私は、簡単には行く気になれませんでした。彼らに悪く思われてはいけけないので、一緒について行きました。行ってみると、驚いたことに、キャンベル氏が彼らの過去を洗いざらい語ったのです（要するに、止めなかったら、彼らが町にやって来たつぎの目的、つまり、結婚衣装を購入するのが台無しになったと思われるようなことが明らかになっていたに違いありません）。彼はそれまでに聞いたこともなく、私達も隠しておこうとしていたのですが、私たちの名前を熟知していました。観察者様、確かに、彼はとても学識のある聡明な方です。どうしても私の運勢を知りたかったので、ジャコバス一族<sup>6)</sup>で敬意を払いますと、（彼のやり方で）いろいろ語りましたが、とりわけ、私は1年と9ヶ月すると、新たな熱病に罹り、医師の手に委ねられるが、かろうじて命を食い止める、その後初めて外出したとき、豊かな資産と良識と寛大な心の若者から求婚されるとのことでした。観察者様、彼はこの世で最も素敵な方です。彼の言うことはすべて実現し、私はケントで一番恵まれた女性となっています。この3ヶ月間、キャンベル氏を捜してきましたが、所在が分かりません。貴方様も寡黙な方と聞いていますので、何かを教えていただけるのではと思った次第です。彼が私の運勢を盛りたてると同じように、私自身は彼の運勢を盛りたてると考えています。町中に密偵を張り巡らせている貴方様なら彼の所在をお知らせいただけるものと確信します。可能でしたら、出来るだけ速やかにお願します。

貴紙の忠実なファン、ダルシベラ・サンクリーより

奇跡に関する調査官には、ドゥルーリー・レインのハーフムーン・タヴァーンの向かいのゴールデン・ライオン<sup>7)</sup>に行き、この沈黙の賢人の真価を調べて、報告するように指示しておきました。

第475号 1712年8月4日（木曜日）

【アディソン】

本来、方法も知恵も持たないものは支配することは出来ない。

(テレンティウス)<sup>1)</sup>

4) これはおそらくスティールの同級生であり友人のリチャード・パーカー師のものと考えられる。

5) キャンベル氏については、第31号参照。

6) ジャコバス (Jacobus) は、ジェイムズ1世のときに発行された金貨で、20から24シリングに相当した。

7) ダンカン・キャンベルの家はドゥルーリー・レインにあった。

会議は国王の意向に合わせ、国王の意に沿う決定だけを伝えるというのは、自分たちの務めを果たすというより、国王のご機嫌取りをする政治家たちが昔からよく口にする言説です。恋する者の相談役は、助言を求める人物の友情を失いたくない場合は、上述と同じやり方を守らなくてはなりません。私はこの手の奇妙な例をいくつか承知しています。ヒッパルコス<sup>1)</sup>は平凡な女性との結婚を考えていますが、友人フィランダーの助言がないと何も出来ないと考えて、その件で彼に相談をしました。フィランダーは率直に意見を伝え、恋人のことをとても手厳しく語りましたので、翌朝、挑戦状を突きつけられ、12時前には、助言を求めた人物によって体に刀を突き刺されました。同じような例で、シーリアはもっと分別がありました。シーリアは、レオニーラに求婚者について率直な意見を述べて欲しいと頼みました。彼女の頼みを聞き入れたレオニーラは、シーリアに向かって、非常に率直に、どうしようもない人物だと言いました。レオニーラが何を言おうとしているかを予見したシーリアは、自分は2週間前に密かに結婚しているので、それ以上続けないで欲しいと頼みました。ことの真相は、女性というものは結婚衣装を購入するまでに助言を求めることはほとんどないということなのです。女性は自分で選択した後で、形式的に、友人に「選択許可証」を送るのです。

こうした場合に、人々の心を動かせ、受け入れる積りのない助言を求めさせる密かな動機を調べて見ますと、私は、自分に大きな喜びを与えてくれる秘密を守ることが出来ないことがその最大の要因だと思います。女性は自分がまもなく結婚するのだということを親友に言いたくて仕方ありません。そこで、夢中になっている相手について喋るために、こんな難しいケースはどうしたらいいのかと、とても深刻な表情をして親友に尋ねます。年間千ポンドないメリッサが、町のあちこちへ行って知人に、年間5千ポンドの資産家のトム・タウンリーから求婚されたのだがどう思いますかと尋ねる理由はほかには何も考えられません。このとき、メリッサが疑念を口にするのを聞き、苦心してその疑念を乗り越えようとしているのを目にするのは、非常に愉快的ことです。

ここで、友人にあり得ない運勢についてさかんに助言を求める見栄っ張りの女性の間で行われている常習的な行為を省略すべきではありません。今や60歳寸前のウィル・ハニコームはこの前、私をわきに連れて行き、非常に真剣な表情で、ちなみに町一番の資産家であるベティ・シングル夫人との結婚をどう思うかと尋ねて来ました。とても奇異な質問を受けた私は彼の顔をじっと見詰めました。すると、彼は直ちに彼女の宝石と資産の目録を出し、こういった重要な事柄では、私の承認がなければ動きが取れないと思うと付け加えました。彼が答えを持っているのが分かりましたので、夫人の同意が得られたら、私も同意すると彼に告げました。私の知る限り、これはウィルが相手に自分の気持を打ち明けずに、友人に相談したほぼ10人目の結婚相手なのです。

私がこの件について没頭したのはつぎの手紙があったからです。これは、その内容からすると、事態が進行し、助言を求めるのに機が熟していると思われる若い女性の物書きか

---

1) テレンティウス『宦官』57-58

らの手紙です。私は彼女の善意を無駄にしたくなく、博識との評判を失いたくありませんので、返事は出さずにその手紙を皆さんにお伝えするに留めたいと思います。

観察者様

事情はつぎの通りです。シャープリーさんは町で一番素敵な人です。彼はとても背が高いのですが、高過ぎるというわけではありません。彼のダンスはまるで天使のようです。彼の口元はどのように表現したらいいかわかりませんが、私がこれまでに目にした中で一番素敵です。彼は限らないユーモアの持ち主ですので、いつも笑っています。貴方に彼のストッキングの履き方を見て貰いたいものです。趣味は数限りなくあり、お会いすれば貴方はきっと気に入られると思います。大変優秀な学者で、ラテン語を英語のように流暢に話すことが出来ます。彼がダンスをしているところを見ていただきたいものです。ところで、分かっておいていただきたいのですが、可哀そうなシャープリーさんには財産がありません。しかし、それは致し方のないことです。私の友人たちはあんまりなことに、彼に財産がないからと言って、いつも私をからかいます。しかし、私は彼が財産よりも素晴らしいものを持っていると確信しています。なぜなら、彼は、善良で、高潔で、謙虚で、礼儀正しく、背が高く、上品で、端正な人だからです。彼と知り合ってこの方、私は彼が示す礼儀正しい振る舞いをととても有り難く思っています。お知らせするのを忘れていましたが、彼の目は黒く、時折、涙を浮かべたような目で私を見ます。でも、友人たちはとても分別なく、彼には冷たく当たるように仕向けます。友人たちには邪魔立て出来ないかなりの持参金が私にはあります。私は来年の8月29日には14歳になります。そこで、出来るだけ早くシャープリーさんと身を固めたいのです。しかし、私が助言を求める人は全員、シャープリーさんの敵です。それゆえ、貴方から助言をいただきたいと思っています。だって、貴方が賢明な方だと分かっているのですもの。貴方が助言してくださいましたら、それに従う積もりです。心から貴方に彼がダンスをするところを見ていただきたいものです。

草々

ビー・ディー

彼は『スペクテイター』紙の大ファンです。

第476号 1712年9月5日(金曜日)

【アディソン】

彼の方法は明白になるだろう。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

私が皆さんにお届けする日刊紙には、規則正しく筋道を立てて書いたものと、随想という形でいろいろな文章をごた混ぜにしたものがあります。前者に関しては、ペンを手にするまでに論考の大枠を考えます。後者の場合は、あるテーマについていくつかの考えを持てば、それで十分です。考えががつぎつぎに湧き出してき、適切な項目でまとめられている

1) ホラティウス『詩の技法』41

と思えるようにわざわざ筋道を立てて整理する必要はありません。セネカとモンテーニュは後者の書き方のお手本で、キケロとアリストテレスは前者の書き方に秀でています。筋道を立てずに書いている天才的な作品を読みますと、私はこの上ない混乱と無秩序な形で登場する非常に気高い対象がふんだんにある森の中に迷い込んだ感じがします。筋道の立った著作を読むと、整然とした植林地にいて、そこから伸びている溝や歩道の全体が見渡せるように、中心部に陣取ることが出来ます。後者の場合、一日中散策することが可能で、刻一刻、目新しい何かを発見出来ます。だが、散策し終わって見ると、その場所に関して混乱した不完全な理解しか残りません。一方、前者の場合は、全景を見渡すことになり、簡単には忘れられなくなります。

不規則性と筋道の欠如は、非常に学識がある、あるいは、天才的な人だけが維持できます。こういった人たちは頭の中に知識が詰まり過ぎていて、厳密になれません。そこで、彼らは真珠を紐で繋ぎ合わすことはせずに、読者の前にその真珠を沢山投げ出すことにします。

著者および読者双方に関しては、筋道の方が著作にとって都合がいいのです。著者に関しては、筋道は創作の大きな助けになります。論考を計画すると、著者は、項目ごとにテーマの全体像に繋がらない非常に沢山の考えを手に入れます。考えを秩序も関連性もなく寄せ集めるよりも、適切な考えに基づいて配置し、規則的に並べた方が、分かり易く、趣旨や意味もうまく伝わります。混乱にはつねに曖昧さが残り、ある箇所では読者を啓発した同じ文章でも、別の箇所では読者を当惑させることになります。同じ理由から、筋道の通った論考における考えも、絵画における人物像がその配置によって新たな美が加わるように、最大の美点を発揮します。読者が筋道の通った論考から受ける利点は、著者の利点と一致します。読者はあらゆることが容易に分かりますし、喜んで受け入れ、長く記憶に留めます。

筋道というものは、自分の言うことを分かって貰うために話すとすれば、著述の場合と同じくらいに通常の会話においても必要不可欠なものとなります。毎日、数多くのコーヒーハウスの議論を聞いています私は、わが誠実な同国人の考えにはこの筋道がないことに気づいています。政治家たちの論争には九分九厘筋道はありません。そこでは、最初の3つの文章が済むと、論点が見えなくなって来ます。わが論争者たちを見ていると、私はイカを思い出します。イカは自分が逃れられないとなると、周囲に墨を撒き散らし、姿を隠します。自分の考えを順序だてて方法が分からない人は、『診療所』<sup>2)</sup>の言葉を借りれば、いつも、「不毛な言葉を過剰に」持っています。果実は繁茂した葉の中に隠れて見えません。

私の観察するところでは、筋道の欠落した論争家として傑出しているのはトム・パズルです。トムは自分を生意気にさせるほどの読書家です。彼は疑念を起こすに十分な知識を持っていますが、その疑念を晴らすことが出来ません。彼がそれほどの学問を身につけて

2) サミュエル・ガース (1661-1719) 『診療所』 2.94-95 ガースは医師・詩人で、ジョージ1世からナイトの称号を授けられた。『診療所』は1699年作で、無慈悲な薬屋や医者を諷刺した英雄詩体をまねた作品。

いること、つまり、それ以上になっていないことは残念です。この素養を武器にして、トムは自由思想家を気取り、国の制度のさまざまな点を非難し、そつなく自分は来世を信じていないとほめかします。要するに、パズル氏はどう見ても無神論者なのです。彼はありふれた話題を6つくらい用意していて、機会を見つけては無神論の話題に入っていくのです。争点はドゥエー<sup>3)</sup>のことなのですが、彼の喋りの半分は、九分九厘、頑迷さと聖職者の才覚の理不尽さになります。これによって、パズル氏は自分よりも分別のない人たちから賞賛され、自分よりも分別のある人たちからは軽蔑されます。町でトムが恐れる人は私の友人ウィル・ドライ以外にはいません。トムの論法が分かっているウィルは、話が横道にそれると分かると、「それでどうしたのです。それが真実だと認めますが、そのことが私たちの現在の論点とどういう関係があるのですか」と言って彼の話を遮ります。私は承知しているのですが、トムが30分間喋り続け、主張が優位に立ったと思って勇んでいたその時、突然、ドライ氏から言いたかったことはどういうことか、皆さんに言って欲しいと言われて、彼は当惑したのです。要するに、ドライ氏は明確に秩序だった明晰な頭脳の持ち主ですが、言葉が少ないのです。少人数の正規軍が訓練を受けていない大人数の民兵に勝つように、ドライ氏はパズル氏に勝っているのです。

第477号 1712年8月6日(土曜日)

【アディソン】

空虚な興奮が、欺瞞を喜ぶ私の心をだます。  
私は、聞えている、動いている、楽しい木立  
の中をさまよっているように見える。  
そこでは、静かな泉が流れ、さらさらとそよぐそよ風が  
揺れ動く木立の中を気ままに移動する。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

前略

最近、貴殿の「想像力の喜び」を読みましたので<sup>2)</sup>、私はわがイギリスの庭園に思いを馳せることになりました。その結果、このテーマについてお手紙を差し上げたくなった次第です。ご承知おきたいのですが、私は奇妙な庭を所有していると思われています。家の周囲に数エーカーの土地がありますが、それを私は庭と称していますが、熟練の庭師からすれば、何と言っていいか分からないに違いありません。そこは乱雑に、菜園と庭園、果樹園と花壇が互いに混交しています。そのため、わが国のことを何も知らない外国人が、着いて初めてわが庭に連れて来られたら、ここは自然の荒野であり、未開墾の地と思うに

3) ドゥエーは同盟軍が占領した4つの要塞都市の一つで、1710年7月14日、マルバラとウジェーヌ(オイゲン)公の軍に白旗を揚げたが、1712年、ドゥナンでヴィラルールが勝利を収め、フランスがこの地も奪還した。

1) ホラティウス『頌詩』3.4.5-8

2) 第411号から第421号参照。

違いありません。花々はこの庭のあちこちで、鬱蒼と豊富に生長します。私は珍しいからと言って特定の花を好きになることはありませんので、野原で気に入った花を見つけると、庭にその花を植えます。このため、見知らぬ人と一緒に散歩すると、庭のあちこちが極彩色豊かな花で覆われているのを見て驚きます。そして、しばしば、ありふれた垣根のふもとや野原や牧草地で見掛けたことがあると思われる花を、最も美しい花として選びます。この点で私が唯一心掛けている方法は、季節に合わせて同時に咲き、変化に富んだ一枚の絵になるように、いろいろな花を同じ区画と一緒に植えることです。私はできるだけ自然の状態を保つために、不揃いな植え付けをします。本来土壤に合わないものは植えません。私が作った迷路を散策しているとき、つぎの木がリンゴなのか檜なのか、榆なのか梨なのか分からない方が楽しいのです。同様に、菜園はそれ用の特別な区画があります。そこは贅を尽くしたものになっていますが、それ以外に、私はいつも菜園を見事なオレンジ温室、つまり、人工的な温室よりも楽しい眺めにすべきだと考えています。私は何事も完璧な形を見るのが好きです。そこで、人工の熱で生きている、つまり、人工の熱が与えられない大気や土壤では枯れてしまう外国の弱い植物を見るよりは、香りを一杯放ち、青々とした名も知らない数多くの香草野菜やアブラナやキャベツの並んだ列を見る方が楽しいのです。端折ってはいけませんが、庭の奥には泉があり、そこから曲がりくねった小川が流れ出ており、数多くのほかのものと同様に、楽しみを提供してくれます。小川をほぼ庭園全体に行き渡るように引いており、広々とした野原を流れるように特別の注意を払っています。その結果、小川はスマレや桜草や柳の木、あるいは自生していると思えるその他の植物の間を流れて行きます。私がこだわっている、隣人たちに言わせると、とても気まぐれだという点がもう一つあります。泉や木蔭、隔絶した場所や隠れ場を提供していることで、私の庭には国中のあらゆる鳥が寄ってきますが、春に巣を壊させたり、実をつける時期に通常の溜り場から追い払ったりするようなことはさせません。私は、サクランボよりもムクドリが群れている庭を大事にします。そのため、さえずってくれる駄賃として果実を惜しげもなく与えるのです。こうすることで、常に、季節の快い響きが完全な形で手に入ります。カケスとかツグミが私の足元でびよんびよん跳び回り、私の通る空き地や小路の目の前をさっと飛んでいくのを見るととても楽しくなります。庭造りは詩歌と同様にさまざまなやり方があると思います。庭園や花壇を作る人は警句家やソネット詩人なのです。あずまやや岩屋、ラティス（格子造り）や人口滝の考案者は、ロマンス作家です。ワイズとロンドン<sup>3)</sup>は英雄詩人です<sup>3)</sup>。批評家として私が彼らのお薦めの一節を選ぶとしますと、最初は砂利採取場に過ぎなかったケンジントンの奥庭を取り上げたいと思います<sup>4)</sup>。このように見苦しい窪地をととても美しい場所に変えることを思いつき、現在のような珍しく心地よい光景にしたのは、庭造りの天才だったに違いありません。この場所をもっと印象付けるために、非常に魅力的な対比を用いました。散歩道の一方には、この空洞の水盤があり、

3) 第5号参照。

4) トマス・ティケル『ケンジントン』（1722）参照。アディソンによると、ケンジントン宮殿の北西部に当たるこの一帯はかつて砂利採取場だったとのこと。

眼下にいい具合に小さな植え込みが見えますが、反対側は、見せ掛けの山で、そこには木が植わっており、中心に近づくに連れて背が高くなっています。説明を聞いたことのない見物人は、この円形の山は実物であるだけでなく、実際に、私が述べたあの空洞の空き地から掘り出されたものだと思うに違いありません。私はこれまで、この庭を歩いたことがあり、私の述べたことに感激しなかった人に会ったことはありません。私自身に関しては、すでにお伝えした説明によって、私の庭造りは完全にピンダロス（不規則な韻律を特徴とする）風であり、優雅さを気取らないで自然の美しさをそのまま示す方法になっています。私が現在述べようとしていることは、おそらく、これまで述べて来たこと以上に貴殿の注目に値するものと思います。この手紙の冒頭部分で述べたことでは、イングランドの庭園を常緑樹で埋めてしまうことに貴殿は反対だと思います。実際に、私はこれまでは、常緑樹の緑が、毎年芽を出し、夏に木々を覆う緑に匹敵すると考えたことはありませんでした。私のような庭好きの人たちが葉を落すことがない樹木だけからなる冬の庭を作ろうと思いついたことがないことを常々不思議に思っています。わが国では、1年のうちで不愉快な時期が大半で、晴れて太陽の出る日はごくわずかです。11月と1月には、もっとも気候の良い時期と同じくらい快適な日は数日しかありません。それゆえ、こういった時期には、私が提案しているような冬の庭を散策するほど楽しいことはないはずだと私は思います。夏場には、どこでも花が開き、樹木は茂り、美しさに気づかないほど、至る所が一種の庭となります。しかし、自然が侘しくなり、辺り一帯が荒涼として殺風景になると、冬の厳しさの中で微笑を浮かべ、枯れてもの悲しくなった中で明るい春の季節を提供する木々で覆われたところには言葉では言い表せないほどの快い何かが生まれます。この思いに没頭して来ましたので、庭の一部をこれに割り当てました。壁面はツルではなくツタで覆います。そこには、月桂樹、シデ、ヒイラギ、その他同種の木々や植物が茂りますので、素晴らしく生き生きとした眺めとなります。このとき垂れ下がるベリーの鮮やかな赤は葉の緑と張り合い、見る人の心に、貴紙のどこかで述べておられた春の喜び<sup>5)</sup>を吹き込みます。同時に、以前お伝えした広大な私の庭が鳥の隠れ場としてわずか1枚の葉さえ提供しないときに、何種類かの鳥が緑の中に引き籠もり、枝や葉の中で楽しんでいるのを見ることはとても楽しいことです。

ご承知いただきたいのですが、私は庭の楽しみを人生における最も無垢な喜びのひとつと考えています。庭は墮落前のわが始祖の住まいでした。庭は本来、心に落ち着きと平穏を与え、かき乱された感情を落ち着かせます。庭は私たちに、神の摂理の仕掛けと知恵に対する洞察力を与え、瞑想の無数の題材を提案します。自然の作品から受け取るまさにこの満ち足りた気持は、徳高いものではないまでも賞賛に値すると思わざるを得ません。というわけで、長々とした手紙になったことはお許しいただけるものと思います。

敬具

---

5) 第393号参照。

## 第478号 1712年9月8日（月曜日）

【ステイール】

効用は、演説の判事であり、法であり、ルールだ。（ホラティウス）<sup>1)</sup>

## 観察者殿

最近、家族のためにいろいろ買物をしなくてはならない友人から買物に付き合っで欲しいと頼まれました。彼は買物上手で、いろんなものが並んでいるのを見るのが大好きでした。これを見ていて、最初は落ち着きませんでしたが、彼の気分は変わりませんでしたので、彼と一緒に見ていた物のことが私の頭を占領し始めました。そこで、物品に関してあれこれ面白いことが頭をよぎることになりました。

ファッションの細部が分かっている人にとって、人間の虚栄がどれほど衣服に現れるか、いかに夥しい数の人々がそれを維持しているか、いかに多くのお金の流れが発生しているか考えることは大変な驚きに違いないだろうと私は思いました。この場合、神は私たちが放棄しない愚行を利用しており、この愚行が一生懸命働く人たちの支えとなっているのです。それゆえ、単純に自然な状態だと無益な房飾り職人やレース編みや頭飾り職人は生計を得ています。もっとも、元来虚栄によって成り立っていますので、こういった職人が大変な金持ちになることはほとんどなく、移り気のために、貧しいままですが。ファッションの変わり易さは商売の流れを変え、今ある方向に流れているかと思うと、つぎにはまた別の流れになります。そこで、変化次第で商売が傾いたり繁盛したりする人たちが出ます。

私たちは商店から居酒屋へ向かいました。そこで、友人が買物にとっても満足したと言いましたので、（私が喋っていればの話ですが）私の道徳的な考えは叱責と受け止められたに違いありません。そういうわけで、私は友人に合わせ、ファッションの効用の話を続けさせました。

ここで、人間はいかに五感に左右されるか、心地よく見える物にいかにか心を動かされるか、それにはいかに服装が貢献していることか、そして心地よく見えるのはいかに衣服のお陰をこうむっているかということを思い出しました。

人間は社会に属している、社会はさまざまな階層で構成される、それぞれの階層は義務とか敬意が伴う服装でその違いを示すのだと考えました。

社交の場で遭遇する利点がいくつか目に留まりました。内気な人は似合いの服装で来ていると思うと、元気づけられ率直に自分の考えを述べるときがあります。また、愚か者でも立派な服を着ていると、馬脚を現すまでは俄然注目を浴びます。一方、良識ある人もだらしない服装をしていると、それと分かり、品位が認められるまでは冷たくあしらわれることになります。経験上、こういったことはしばしば起こり得ることですので、息子に服装は財産以下でなく以上にするように助言した著者<sup>2)</sup>にはその根拠があったのです。

---

1) ホラティウス『詩の技法』71-72

2) フランシス・オズボーン『息子への助言』

最後にこのテーマはとても重要と思われるので、ファッション用の保管場所を建設し、そこにメダルやその他珍品を入れる部屋を設けることを提案しました。この建物は、女性の頭の形状を真似て、ピラミッド状にします。この建物は基礎に柱を置き、柱にはそれに見合った装飾を施します。土台には縁飾り、フリーズ（装飾用小壁）にはレースを彫ります。そして、コーニス（蛇腹）には巻き毛の頭髮とリボン結びをつけます。内部には男女それぞれのための部屋を設けます。部屋には棚を付け、棚の上には図書館の本と同じように箱を整然と並べます。箱には開閉可能な折りたたみ式ドアを付け、流行した時期を記した台座に流行の衣服を着せた人形を載せます。それ以上の決まりごととしては、流行を作り出す人に自分の箱を持ち込ませ、箱の前面には随意、金箔を施した本と同じだが、すぐに見る人の目を引くようなまめかしい、あるいは、陽気なからくりで彩色を施します。十分注意して保存するために、衣服に関する適切な知識を備えた紳士を管理人として任命します。その結果、身づくろいに資産を費やす洒落者たちにとって、この場所は快適な支えとなります。

人々の賛意を得られると考えた理由は以下の通りでした。

第一に、洒落者として注目に値し、服装の強みで隠すことが可能な自然ないし偶然の欠陥を何か持っている人は誰でも、この保管場所にやって来て、身づくろいをすることが出来る、そして、同じ不幸に見舞われているすべての人たちに不幸を隠す最も心地よい方法を提供できること。一方で、容姿に自信のある人もまた、それを見せびらかす最も心地よい方法が提供されること。

第二に、旅行する若い紳士たちを見ていると、単に服装の趣味を磨き向上させるために旅行するのではないかと思わせるところがありますが、この種の企ては国内で可能なことであり、その方が事実上国外にお金を流出させないで済みます。おそらく、ヨーロッパでの流行の天秤は、今はフランスに傾いていますが、将来は変わり、これまではイギリス人がフランスに行っていましたが、最後の仕上げをするためにフランス人がイギリスにやって来るのが当たり前になるかも知れません。

第三に、そうでなければ世の中のためになっていたと思われる偉大な学者たちの中に、博識で理解した振りをしているに過ぎない曖昧な手掛かりを根拠に古代の服装の研究に時間を費やしている人がいますが、今後は、彼らはその労から解放され、人々は無益な書物から解放されることになるでしょう。この企画は、著者が陥りがちな曖昧な文章を一掃するために、後世の人たちが頼る記録簿保管所になる可能性があります。そこで、今後は、ファージンゲール（ペティコート）は安いから、派手なひだ飾りは暖を取るために着用したといった語源の勉強をしなくて済みます。

第四に、年配者はしばしば若者の奢侈、そして、子供が生きる時代を毒づきますが、時代の流行に訴え、擁護させ、現在首巻やネッカチーフを買い求めるのに高くついているように、エリザベス女王の時代にはひだ襟の洗濯をして、ひだつけをするだけで高くついたのでと示すことが出来ると、意地悪が随分抑制されるものと期待します。

また、洗練された紳士にふさわしい知識を植え付け行儀作法の仕上げをしてくれる外国

人に特別の敬意を払いますので、学究的な言葉でこの建物のモットーを思いついたことに注目していただきたいと思います。ドアの上部に絵を掛け、中ほどには姿身と化粧用の椅子を配置します。一方に、つけ黒子入れと針刺しと小箱が見えるようにしておきます。また一方には、髪粉入れと白粉はけと櫛とブラシを用意します。この向うにリボンのついた剣を用意し、切っ先は見えないようにしておきます、そして扇をほぼ閉ざしておき、取っては下向きにします。剣と扇は上部で出会い、ほかの像の上で半円状になるまで、互いに目立つようにしておきます。こういったもろもろの下部に、つぎのように仰々しい言葉を記します：「ヴィーナス、三美女神、キュービッドであるあなたたちよ、注意して聞くのです。ほら、矢を、たいまつを、リボンを用意するのです。ここであなたたちの武器を選び、あなたたちの支配圏を広げるのです」。

敬具

寄稿者の提案は（取るに足らないことに尽力しようとする）人々を整理する巧妙な方法と考えます。そこで、私は「流行協会」に理事会を置くことを提案します。個人が一人で決定するのは荷が重過ぎることですので、寄稿者の皆さんからこの仕事に適任の方の一覧を送っていただけると大いに助かります。追従者や崇拜者が少ない人が取り仕切る主要なコーヒーハウスでの話し合いで2、3名の名前を挙げてもらうと、この人たちは信頼に耐えられる存在となります。一番にあがって来るのはかつての洒落者です。服装に関しては、この分派はほぼ絶えていますので、ここには必ず日和見主義者と思われる人たちを入れておく必要があると私は考えます。確信あるいは考えを持たない彼らは世間の流れに合わせて変わり、それも単に流行遅れになることを恐れているからに過ぎません。また、手際のよさと従順さから自分の意志に逆らい、自分の思い通りにやる勇気がないために自分が認めていない先導者の説に追従する彼らは、監督者の地位に就く資格があります。老いることを嫌がる、あるいは、流行について行きたい一心で事態の推移や流れに反することをやる人たちも、候補者に適しています。結論として、長所に見えるものがない洒落者は、監督者の地位に就く潜在的な資質を備えていると考えられるに違いないので、この一覧に加えるべきです。以上のこと、さらには考えられる資格にしたがって、喜んで一覧を送っていただける方は、本日から14日以内にお届けください。

なお、当協会の医師の席は、先述の資格にしたがって、すでにふさがっていますのでご注意ください。

第479号 1712年9月9日（火曜日）

【スタイル】

夫の掟を定める。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

私が日々受け取る書簡の多くは夫からのものです。彼らは妻の虚栄や誇り、とりわけ意

1) ホラティウス『詩の技法』398

地の悪さについて不満を述べています。私には詳細は分かりませんが、彼らの手紙を読んでもみますと、不安の原因は彼ら自身にあると思います。実際、夫に分別や自制心があって、結婚状態が不幸になっているケースを私はほとんど見たことがありません。実は、私たちは一般に品よく日常生活には不向きな気持で愛し合います。半ば芝居がかり、半ばロマンティックです。このため、生活では予期しないことに想像力を掻き立てます。あらかじめ、惚れ込んだ相手が不機嫌になったり、加齢したり、病気になったり、苛立ったり、すねたりするなんて考えてもいなく、完全に喜びの対象としか考えていませんでしたので、往々にして、特定の不完全さつまり欠陥を彼女の人間性そのもののせいにします。

常に喜ばしい気持ちを維持し続けることが、生活のあらゆる出来事で、とりわけ、家庭つまり夫婦関係において、守るのにふさわしいルールだと、私は考えます。私たち自身の空想とか欲求が命じるのではなく、自然が命じるままに、正しい考え方に基づいて物事を考えない限り、これを維持することは出来ません。ひたすら戯れの場面だけを期待して女性をベッドに誘い、(私が以前に言ったように)彼女のことをただ単に欲望の充足に資するものと考えた人は、欲望が薄らぐと、彼女のせいではないのに、彼女の魅力や長所が減じられたと考えるでしょう。そして、それが原因で、冷淡で、反感を持ち、気難しく、腹を立てるに違いありません。ところが、熱情の裏づけとして理性を働かせ、愛する者が心身共に、不幸を免れないのであり、せいぜい新たな気苦労と新たな関係をもたらしに違いないと考える人は、いわば、それにしたがって自分を作り上げ、自分の境遇に適応させることになります。こういった人はいまだ生まれていない子供の父親、友、擁護者、執事になる心の準備ができ、結婚状態で発生するあらゆる出来事に愛情を持って接することになります。子供の泣き声も怒りではなく哀れみを持って聞くことが出来ます。そして、子供たちが頭の上を走り回っても、騒々しさに悩まされることはなく、健康で元気なことを嬉しく思います。トム・トラスティから聞いたところでは、彼は育てている子供たちが隣の部屋で騒いでいるのを聞くと、この上なく複雑な事柄に対する注意力が倍增すると思うということです。一方、ウィル・スパーキッシュは、忌々しい乳母と金切り声を上げる悪戯鬼の騒ぎが聞えてくると、髪をつけたり、鏡に向かって首巻を絞めたりすることが出来ず、最後には結婚生活の慰めについて勇ましい意見を述べ、騒々しい場所から逃げ出し、チョコレートハウスへと行きます。

夫の気持次第で、生活のあらゆる出来事が苦しみになったり喜びになったりします。愛情があり、その愛情が結婚生活で非常に大切な義務や敬意や友情で支えられているときは、通常の生活において、要するに運命の悪戯によって、独身には分からない喜びを奪ってしまうようなことが起こるはずがありません。

心から妻子を愛し、愛情を高めようとする人は、何でもないことに喜びを見出します。一方、流行や不実な色恋に別れを告げない夫は身の回りのあらゆることが悩みの種になります。実際には、双方とも愚かにはなりきれず、ひたすら喜びや苦しみを口にするだけです。とにかく、彼らは周囲の人たちを巻き込みます。私はいろいろな人たちの元を訪ねますが、善良な夫人が夫にあなたが出掛けてから子供が驚くべきことを口にしたと話し掛け

るとき、実のところ私は微笑を浮かべざるを得ません。つい昨日のこと、私は猫かわいがりをする夫に自宅まで来て欲しいと説き伏せられました。すると、彼の妻が、夫に向かって、居間の時計が2時を告げると、何も言わないのに息子が、間もなくパパが帰って来ると言ったのですよ、と言ったのです。この父親は息子を大喜び抱きかかえ、キスを浴びせていると、妻は私にあの子はまだ4歳なのですよと言います。それから、二人して息子を奪い合い、私のところへ連れて来て、この子が2時と言ったのだと繰り返します。その子の表情そして私を見て、何か発言をするように求められました。私は父親に、時計に合わせて父が帰宅するというこの子の発言を聞いていると、この子が偉大な歴史家兼年代学者になる確かなしるしですねと言いました。二人とも愚かではありませんが、私のお世辞を私の先見の明と受け止めました。私は夕食をご馳走になり、私にとっては面白くもない彼らの相続人のその他注目すべきもろもろの発言を聞かされました。だが、重要でない事柄が希望や自己満足や勝ち誇った感じを与える人生の幸福について気づくことは楽しい思索でした。他方、以上の気質がないために、図体以外はほとんど何も向上させない気難しい気取り屋が家中を沈黙させる例を知っています。弱々しい女子供は、本当に夫の能力を超えたことを並べ立てるしかありません。

以上のことをお話するとき、男のめぐりあわせで強情な女になることがあることは否定出来ません。この場合、生きるためにはより一層哲学の熟達が求められます。こういった女性が自制心あるいは学問はないが思いやりのある男性と一緒にになると、わが有名な法律家の一人はむちを控え目に使用すべきだとの考えですが<sup>2)</sup>、しばしばむちで矯正されます。まさしく彼の言葉だと記憶していますが、あらゆる苦悩から何か精神的な効用を引き出すことが好ましいのですから、私はむしろ、容易に屈しない女性に見舞われる人たちは家庭では忍に耐えることをお勧めします。みんなから押しも推されぬ妻の尻に敷かれた夫とされているソクラテスは、彼の美德の大半は有益な妻が絶えず与えてくれる訓練の賜物だと認めています。自分よりも胆力のない人たちに対する彼の賢明な返事から、ためになる教えをいくつか引き出せます。ある友人は憤慨して、あなたほどの立派な人がどうしてこれほどつまじい女性と生活が出来るのかと尋ねました。彼はその友人に向かって、「乗馬がうまくなろうとする人は一番御しぬくい馬に乗り、その馬を乗りこなすようになると、強情でない馬に跨っても不安を覚えることはないのだ」と言いました。同じ件で、彼は何度か、相手は違うのですが、「友よ、討論会で君が食って掛かるのをちゃんと聞けるのもクアンティッペのお陰なのだ」と言っています。別の場では、「私の雌鶏はさかんに鳴くけど、ひよこを産んでくれるのだ。商売人が頻繁に往き来する通りで暮している人は荷車の往き来は気にならないのだ」<sup>3)</sup>と言いました。出来ることなら、賢明な人は口やかましい女と一緒になくても満足して貰いたいと思います。なぜなら、女性をより望ましいものに出来なくても、自分はその女性のお陰で立派になれるかも知れないからです。

2) ヘンリ・ド・ブラクトン (1216-1268) 『イギリス法律慣習法』1.10 ブラクトンはイギリスの中世で最も偉大な法律家とのこと。

3) クセノフォン『饗宴』2.10, ディオゲネス・ラエルティオス『哲学者の生涯』2.37

ところで、夫婦愛の長所と魅力を示そうとする私の目論見を追求するのではなく、結婚生活が不利になるような話を始めます。実のところ、生活における楽しみはどんなことであれ、独身よりも結婚している方がより大きなものなのだということは納得しています。喜びの場合、この気持ちを完全な形で抱く人は、自己満足に加えて、これは妻子にとってどれほど幸福だろうかと自分に言い聞かせることが出来ます。不幸とか危険の場合は、とにかく妻子は無事なのだと自分を慰めることが出来ます。そこには、他人が関与するからということで満足感を倍増させ、他人が免れるということで苦しみを追い払う何かが存在します。結婚している人はこれを味わうことはなく、達成することの出来ない味気ない怠惰と無関心な生活をするか、度重なるきつい受け答えや痛烈な叱責や心を乱す小言にさらされる生活をするかのいずれかになります。要するに、結婚状態は現世で受け止めることが出来る天国と地獄の完全な心象を提供するのです。